

京都コンサートホール大規模改修に向けた進捗について

世界文化自由都市宣言の理念のもと、平安建都 1200 年を記念し平成 7 年に開館して以来、30 年に渡り、京都のクラシック音楽の殿堂として市民に愛され、更には、国内屈指のオーケストラとして評価の高まる京都市交響楽団の本拠地として役割を果たしてきた京都コンサートホールを、これまでの評価を踏まえ、新たなステージへと踏み出していくため、大規模改修を行うこととし、その基本設計を進めてまいりました。

この度、基本設計を取りまとめましたので、報告します。

1. 基本設計の考え方

ホールの現状を強みと課題に分けて整理し、京都コンサートホール魅力向上方針に掲げる「継承・発展」「創出・拡張」「創造」をキーワードに、文化芸術の力で国内外から人々が集う文化芸術都市・京都を実現させ、将来に渡り、京都の音楽芸術文化の価値を高め続けることを目指し、以下の点に留意して進めてまいりました。

「劣化改修」：経年による変化、デジタル時代への対応 等
「現行法への対応」：来場者の安全確保 等
「環境負荷への対応」：地球温暖化対策などを踏まえ、環境への配慮 等
「利便性・魅力向上」：音響、演奏環境などの向上 等

これらに加え、現在のコンサートホールの設計は、プリツカー賞など世界有数の建築賞を受賞した故・磯崎新氏が手掛け、独自性及びデザイン性が高い建物であることから、建築価値の継承のため、保存・尊重することとしています。

2. 基本設計の概要

(1) 受託者

株式会社 松田平田設計（代表取締役社長 江本正和）

契約金額 207,027,700 円（税込）

(2) 施設概要

敷地面積 9, 900 m²

主要構造 鉄筋コンクリート造

階 数 地上5階 地下2階建て

建築面積 5, 391 m²

延床面積 22, 442. 30 m²

建物高さ 20 m

座 席 数 大ホール：1, 833席、車いす用スペース6

小ホール（アンサンブルホールムラタ）

：510席、車いす用スペース4

(3) 主な整備内容

老朽化した施設の更新	
劣化改修	舞台音響のデジタル化、機械設備の更新、 内外装の劣化改修、 パイプオルガンのオーバーホール 等
現行法への対応	特定天井対策、昇降機の改修 等
環境負荷への対応	照明のLED化、太陽光発電設備の設置 等
利便性・魅力の向上	
音響等の向上	舞台形状の変更、客席背面の素材変更、 舞台床の張替え、ひな壇の追加 等
その他	大ホール内エレベーターの新設、トイレの増設（男 性用5増、女性用9増、多目的トイレ2新設）、 ロビーコンサートを開催可能とするエントランス ホールの改修 等

(4) 工事費（概算）

約155億円

今後、物価や人件費が高騰を続けた場合は、上振れの可能性があります。

3. 今後のスケジュール

令和8年7月 実施設計着手

令和10年11月頃 工事着手

令和11年9月頃 閉館

令和13年度末頃 リニューアルオープン

※今後、スケジュールが変更となる可能性があります。